

1 題材名 「いろいろなひびきを味わおう」

教材 「リボンのおどり(ラ バンバ)」「いつでもあの海は」

「双頭のわしの旗の下に/アイネ クライネ ナハトムジーク 第1楽章」

2 題材の目標

- ・声や音の重なり合う美しい響きを求めて表現したり聴いたりする学習に主体的に取り組むことができる。
(音楽への関心・意欲・態度)
- ・旋律の重なり方の違いが生み出す響きのよさを感じ取り、美しい響きになるように表現の仕方を工夫することができる。
(音楽表現の創意工夫)
- ・旋律の重なり方や拍子の特徴を生かして、表情豊かに歌ったり楽器を演奏したりすることができる。
(音楽表現の技能)
- ・いろいろな楽器の音が重なり合う響きの違いや、曲想とその変化などの特徴を感じ取って聴くことができる。
(鑑賞の能力)

3 題材について

本題材では、歌声やいろいろな楽器の音が重なり合う響きを味わったり、きれいな響きを求めて演奏の仕方を工夫したりする活動を行う。まず、「リボンのおどり」では、いろいろな楽器が重なり合う響きを味わう。その際、楽器の組み合わせや強弱を工夫して、響きの変化を楽しむ。本時の教材「いつでもあの海は」では、1、2段目の斉唱の後、2つの旋律が3段目で違ったリズム、4段目では同じリズムで重なり合う響きを味わう活動を進める。さらに、鑑賞曲「双頭のわしの旗の下に/アイネ クライネ ナハトムジーク 第1楽章」では、吹奏楽や弦楽合奏の響き、曲想の変化を感じ取って聴く。これらの活動を通して、声や音の重なり合う響きを感じ取ったり、響きを味わいながら表現したりできる力を育てていきたい。

4 児童について

楽しく学習に取り組んでおり、楽器を演奏したり、リズムに乗りながら動きをつけて歌ったりする活動を好む。反面、落ち着いて深く考えたり、集中して声や音に耳を傾けたりすることがやや苦手で、歌声は固さが目立ち、斉唱でも全体の声がまとまりにくい。4年生では、「あの雲のように」や「空に雲に」で、旋律を追いかけたり主旋律に簡単な副旋律を重ねたりする部分二部合唱を経験している。本時の教材「いつでもあの海は」のように、2つの旋律が違ったリズムと同じリズムで重なることや声が重なり合う響きを味わう二部合唱の学習は、初めての経験である。そのため、追いかけるような対位的な旋律の重なりによる合唱は比較的容易と考えるが、同じリズムで旋律を重ねる和声的な重なりによる合唱は、副旋律が主旋律の三度下で重なる部分が多いこともあり、相手の声につられてしまい、互いに響きを感じながら声を重ね合わせることは難しいと予想される。さらに、声を重ねる活動は、繰り返しの練習が多く単調になり、意欲が低下しがちである。児童が学習意欲を持続させながら、声が重なり合う響きを味わうことができるよう指導・支援していきたい。

5 指導について

本時では、3、4段目の旋律の重なり方の違いに気を付けながら、声が重なり合う響きを感じ取って歌う活動を行う。旋律の重なり方や副旋律の音程を確かめた後、二部合唱に挑戦する。旋律の音程が不確かな場合は、楽器での補助、手で音の高低を示す等により、正しい音程をつかむことができるようにする。また、歌唱隊形の工夫や聴く活動を大切にすることにより、互いの声や重なり合う響きをとらえやすいようにする。さらに、やわらかな歌声を意識したり、音量のバランスを考えたりさせながら、声が重なり合う響きを味わわせたい。今年度、個人テーマ「学ぶ楽しさ、分かる・できる喜びを味わわせる音楽科の授業づくり」のもと、ICT機器の活用を図りながら研究を進めている。本題材では、電子黒板の書き込み、保存、再読み込み、修正の機能を使い、旋律やその重なり方の特徴、歌詞の内容や曲の構成等を確認したり、表現の仕方を考えたりしながら演奏を作り上げていく活動を行う。その中で、互いに学び合い高め合う姿が見られると考える。

6 指導計画（8時間配当）

時	学習内容	ねらい	関	創	技	鑑	評価規準
1 ・ 2	パートに合った楽器を選んで演奏する。	パートの特徴に合った楽器を選んで演奏することができる。	○		◎		(技)パートの特徴を生かし、拍の流れにのって正しく演奏することができる。
3	重なり合う響きの変化を楽しむ。	楽器の組合せや強弱を工夫して演奏し、響きの変化を感じ取ることができる。		○	◎	○	(技)楽器の組合せや強弱を工夫し、響きの変化を感じ取って演奏することができる。
4	旋律の重なり方の特徴をとらえて歌う。	旋律の重なり方の違いに気を付けて副旋律を歌うことができる。	◎		○		(関)旋律の重なり方の違いに気付き、声を合わせて歌う学習に主体的に取り組もうとしている。
5 本時	旋律の重なりを感じ取って歌う。	旋律の重なりを感じ取りながら二部合唱することができる。	○		◎		(技)旋律の重なり方に気を付けて、声の重なり合う響きを感じ取りながら歌うことができる。
6	全体の構成を考えて二部合唱をする。	楽曲の特徴を生かした表現を工夫して二部合唱をすることができる。	○	◎	○		(創)歌詞の内容や強弱を生かして、表情豊かに歌うことができる。
7 ・ 8	吹奏楽や弦楽合奏の響きや曲想の変化を味わう。	音が重なり合う響きや曲想の変化を味わって聴くことができる。	○			◎	(鑑)楽器の音が重なり合う響きを味わいながら、曲想の変化を感じ取って聴くことができる。

7 本時の目標

- ・旋律の重なり方の違いに気を付けて、声の重なり合う響きを感じ取りながら二部合唱をすることができる。

8 準備物 電子黒板

9 本時の学習過程

学 習 活 動	支援（・）と評価（☆）
○「いつでもあの海は」の主旋律を歌う。	・全体の響きをそろえて声を遠くに響かせることを意識しながら、やわらかい声で歌うようにさせる。
2つの旋律を重ねて二部合唱に挑戦しよう	
○旋律の重なり方を確かめて、副旋律を歌う。	・楽譜を提示して、視覚的に音の高低や重なり方を確かめて、正しく歌唱できるようにする。
○3段目と4段目を合唱する	・音程を確かめたり音の重なりを聴いたりしやすいように、歌唱隊形を工夫する。
○2つの旋律がきれいに重なるためには、どんなことに気を付けたらよいか考えながら合唱する	・音程が取りにくい場合は、メロディーを弾いて補助をしたりパートの人数を変えたりして歌わせる。
・正しい音程	・重なった音を長く伸ばすことにより、音程を確かめたり声の重なり合いを味わわせたりする。
・やわらかい声	・やわらかい発声や主旋律を生かすことに気を付けたり相手の旋律や全体の歌声を意識させたりすることにより、声の重なり合う響きを感じ取れるようにする。
・主旋律を生かす声量のバランス	☆声の重なり合う響きに関心をもって、意欲的に歌っているか。（活動の様子の観察…関心・意欲・態度）
・相手の旋律や全体の歌声を聞く	☆旋律の重なり方に気を付けて、声の重なり合う響きを感じ取りながら歌うことができているか。
○次時の学習について知る。	(演奏の聴取…表現の技能)

10 授業の観点

- ・声を重ね合わせる場面での教師の支援は、児童の学習意欲の持続や声の重なり合う響きを感じ取る活動に効果的であったか。